

経営比較分析表（平成30年度決算）

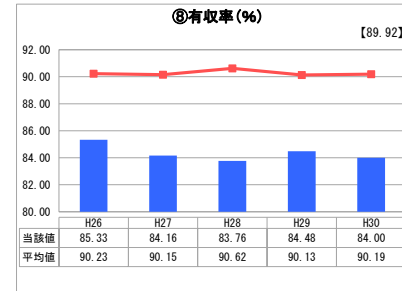
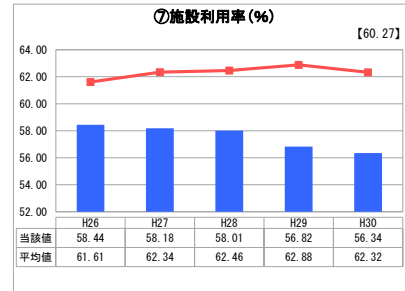
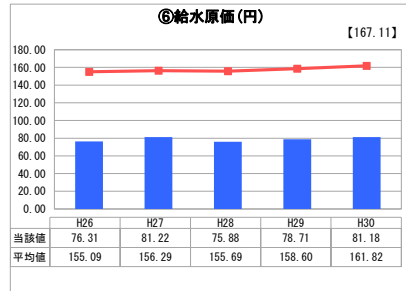
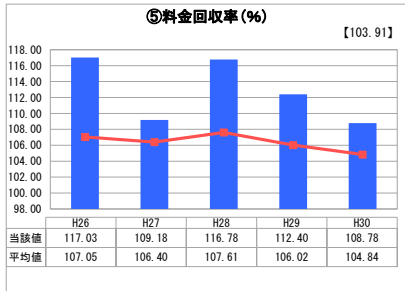
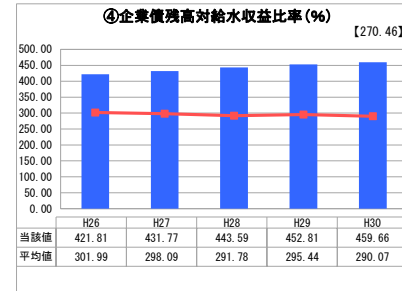
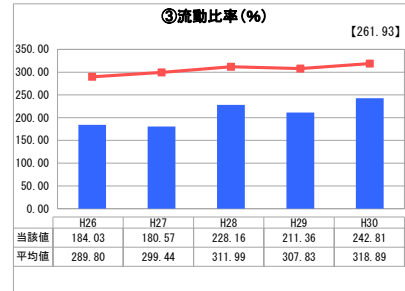
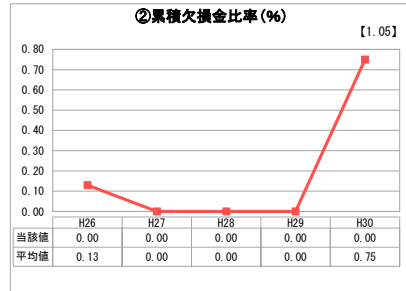
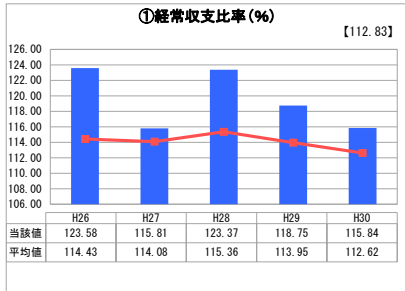
静岡県 沼津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	63.47	99.41	1,610	

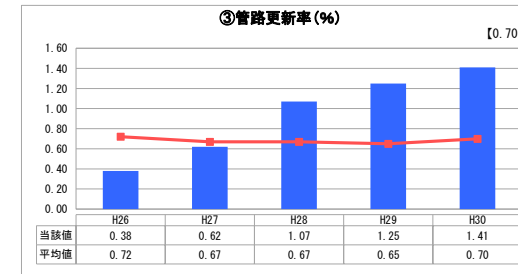
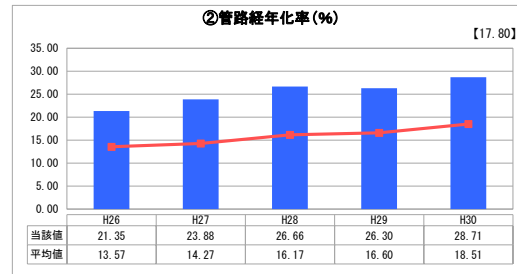
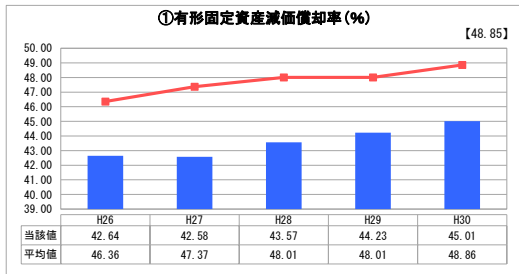
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
195,986	186.96	1,048.28
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
226,209	66.45	3,404.20

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

本市の水道事業の経営状況は、「①経常収支比率」が100%を超え（黒字を確保）、全国及び類似団体平均より高く、「②累積欠損比率」が0%（過去の赤字分も無し）であるなど、健全経営を確保できている。

これは、1㎡当たりどの程度費用がかかるかを表す「⑥給水原価」で示されているように、本市は良質で豊富な水資源が確保できているため、水道水供給に費用がかからないことや、「⑤料金回収率」で示されるように水道料金で給水に係る費用を賄えているからである。

一方、「⑦施設利用率」は減少を続けている。これは人口減少や節水機器の普及などにより、年々配水量が減少していることが主な要因であると考えられ、この傾向は当面続いていくと想定される。

そのため、今後の人口減少などによる水需要を考慮し、施設の統廃合、ダウンサイジングなど効率的な施設形態の検討をしていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す「②管路経年化率」で示されるように、本市の管路経年化率は全国及び類似団体平均よりも高く、管路の更新が急務となっていることが分かる。

また、当該年度の管路更新ペースを示す「③管路更新率」は、全国及び類似団体平均を上回っているが、経年化率から鑑みても、引き続き、管路の更新事業への投資が必要となる。

上記のことから、「②管路経年化率」上昇の抑制及び「③管路更新率」の向上が図られるよう、引き続き、管路更新を計画的に進めていく。

全体総括

現状の経営においては、健全経営を確保できていると考えているが、近年は給水量の減少に伴い水道事業の主要な財源である水道料金収益は減り続けており、将来においては厳しい経営状況になると予想される。

一方、上述したとおり、水道施設の老朽化に伴う更新事業は計画的に行っていかなければならない。このような中、経営の健全化を維持し、計画的な施設更新を実現するためには、引き続き、経費削減に努めることが必要となる。

また、令和2年度末までに策定する経営戦略に上記課題を踏まえた内容を盛り込み、水道事業が安定的に継続できるよう努めていく。